



<VOL162.2021.6>

もりおかクラブ事務所：〒020-0021 盛岡市中央通3-7-18 ラ・パルク中央 1階 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」

「変化をもたらそう」

「変化をたのしもう！」

「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」

「暗雲をふりはらえ、きっと未来は明るい」

国際会長	Jacob Kristensen (デンマーク)
アジア太平洋地域会長	David Lua (シンガポール)
東日本区理事	板村 哲也 (東京武蔵野多摩)
北東部長	南澤 一右 (仙台青葉城)
もりおかクラブ会長	長岡 正彦

今月の聖句 マタイによる福音書、7章13節



「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入るものが多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細い事か。それを見出す者は、少ない。」

会長	長岡 正彦
副会長	山口 貴伸
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	中村 渉 (チャン)
メネット	井上 優子

令和3年7月定例会

日時、場所 7月10日(土曜日)、18時30分より、500円
アイーナ6F団体研修室3
卓話を予定しております。

第二例会 7月24日(土曜日)、18時30分より
駅前居酒屋じよ居

会長巻頭挨拶



長岡会長

みなさまこんにちは、ワイズメンズクラブの20~21年度の年度末を迎えました。昨年に続き、コロナの影響で活動が制限されてしまった1年でしたが、岩手県でもワクチンの接種が本格化しています。今年の秋頃までには希望者には全員行きわたるとの見込みです。盛岡クラブでも数人の接種完了や、一回目が終わった方が出てきました。明るいニュースですね。予定通りパンデミックに打ち勝つ日が近づいてきています。もう少しです自主自粛を続けてワクチンを待ちましょう。

一部マスコミの報道に怒りを感じています。ワクチン接種のミスや予約に関して、主催者の上げ足をとって何になるのでしょうか公共の電波を用いて気分がわるくなるような取材はやめて欲しいものです。「戦っている人を、戦わないマスコミが笑う」、とんでもない事です。日本人として恥かしくないですか。

6月定例会のご報告

6月12日、18時30分~20時30分、アイーナ団体活動室2。出席者、長岡、大関、濱塚、山口、井上、三田、大関、魚住、細越、中村(敬称略)。ゲスト、畠山将樹さん(弁護士)、星野太子志さん(ゲンさん)、遠藤佐奈さん(ととろ)、新井友人(ポン)、尾河芽生さん(ビリケン)以上15名の参加で開催いたしました。

今年度最後の例会でした。昨年度に続き楽しい事が極端に少ない一年でした。それでも季節は間違いなく進み、山の緑も濃くなり、花は次々にバトンを渡しています。そして、いつしか汗ばむ湿った空気がまわりつく季節になりました。マタビが白くなったと思った瞬間もりおかは梅雨入りの発表です。昨年は夏が無かったのです。今年は太陽の日差しに肌を焼く夏が待ち遠しい。ワイズの活動も活発になるよう、新年度に期待します。

今月のメインイベントは畠山将樹さんの卓話です。青少年の健全育成や民主主義についてお話いただきました。今回も充実の卓話で一同大いに感心させられました。この後特集しております。お楽しみに。

子供たち、一人一人を大切にするために。

弁護士 畠山将樹



畠山将樹さん

みなさまこんばんは、市内で弁護士をしている畠山将樹と申します。「子供たち、一人一人を大切にするために、を実現するために。」をテーマにお話をさせていただきます。

元々は岩手県職員でした。仕事はやりがいもあり楽しかったのですが、税金の徴収の仕事をしていた時転機が訪れました。税金を滞納している人はなにかしら困っていたのです。弁護士が不足していて、問題解決できない県民が多数いたのです。

そこから弁護士を目指しました。その後、弁護士になり、岩手県民のために仕事を始めました。私が力を入れているのは、消費者問題、子供の事、人権問題などです。中学生の自殺に関する第三者委員会を2回手伝いました。その後、岩手県の教育委員を拝命し、子供の教育に関わり、今思っている事をお話いたします。

子供たち、一人一人を大切にする方法はたくさんあって、答えは一つではありません。私が思っている事は「個人の尊重に尽きる。」と考えています。具体的には、「相対的競争」、「ルールは少なく」そのためには、既存のルール、あたりまえ、を見直していかなければならない。また、学校での働き方改革が進まないと子供を大切には進みません。そのために子供を取り巻く社会環境の充実が必要です。例えばYMCAのように学校では無い所での関わりや、体験を提供する活動が今後重要になって行きます。と言うのが結論です。

子供の世界ではいじめや事件が多発しています。いじめた子、いじめられた子、刑事事件を起こした子、一人一人を大切にされているだろうか。見落とされる子がいなかったらだろうか。という疑問に悩まされ続けています。民主主義はあらゆる人間生活にしみこんで行かなければならない人間を尊重する精神である。人間が人間として自分自身を尊重し、互いに他人を尊重しあうという事は政治上の問題や、選挙の投票をするよりも遥かに大切な民主主義の心構えである。大切なのは民主主義の精神をつかむことである。民主主義の根本は精神的態度に他ならないからである。それは、人間の尊重という事です。民主主義について、旧文部省が使っていた「民主主義」という本から抜粋しました。戦後間もないころの中学、高校の教科書でした。復刻版は1995年に発行されています。戦後間もなくこれだけの本が教科書になっていたのです。民主主義のすべてが詰まっています。民主主義は選挙制度や多数決などの考えを埋め込まれますが、そんな事じゃないのだ、すべての人間を個人として尊厳な価値を持つものとして取り扱おうとする心、それが民主主義の根本精神である。それは精神的態度に他ならない。日本国憲法13条は個人の尊重です。このことが次世代を育むのに最も大切なのです。

戦後すぐの教科書で民主主義を教育して、個人個人を尊重して来たならば日本人の自己肯定感が低いのはなぜでしょう。日

本人の自尊感情の低さについて学校における相対な序列の中で自分はどの程度の人間かという事を繰り返し言われ続ける事が原因だ。学校からの要求は絶対という教育を受けていると、自分では何も考えられない子供が増えてしまう。そして、おしきせのルールになじめないと排除される。そうした自分を否定された経験やがんじがらめになった経験が原因だなどと分析されています。誰も思い当たることがあるのではないのでしょうか。

国連の子供の権利委員会が日本政府に、社会の競争的な性格により子供時代と発達障害が障害される事無く子供時代を享受することを確保する事を勧告しています。市民社会における競争主義から子供期を守るためのバリアを構築することが政府の義務なのです。これほど、包括的かつ、明確に示されたのは初めてでした。

世界標準から見ると日本の状況はちょっとおかしいのではと思われています。日本がどれだけ遅れているか実感してしまいます。日本人は過度に競争させられている。勝ちを要求され、決まったルールに従わされ、そこで負ける経験、はみ出してしまう経験、そんな否定経験が多くなっている現状です。

子供を取り巻く環境ではルールを考え直さなければいけないと思います。目的がよく分からなくなっている、手段として相当ではなくなっているルールがないのでしょうか。目的を達成するための手段で有るはずなのに、ルールを守る事が目的になっていませんか。ルールがあるからはみ出してしまう子が出てくるのです。ルールがあるからです。相対的比較では負ける子は出ます。問題児と言われる子の、何が問題なの。小学校で規制される地域に自転車で出かける。子供同士ではいけない買い物をする。中学校では外泊を繰り返す。結果事件が起こります。学校も保護者も過去の反省からルールを作ってきたのでしょうか。ルールを守れなかった理由を検証する事が圧倒的に不足しています。これができなかつたらそんなルールは無い方がいいと思います。忘れ物が多い小学生、注意しても忘れる。家庭も応じてくれない。名札は付けません、学校の日別の服装や持ち物の指定などは忘れて親に連絡しません。そんな、軍隊主義の名残のようなルールなどは外国人からみれば驚きです。このような事から今ある、当たり前を見直さないといけないと思います。今ある事象を検証して対策を考える、原因を分析していくと、「そもそもそんなルール要らないんじゃないの。」という事になり、ルールを撤廃すれば問題じゃ無くなる。小さな問題の解決を積み重ねて行けば大きな解決に結びつくと思います。子供たちは考える力をもっています。任せて見るのも問題解決に繋がる気がします。

教職員の働き方改革が子供のために必要です。忙しくて子供に向き合えない現実があります。ルールを作れば少し楽になります。管理統制の切り札で、いつしかルールを守る事が目的になってしまっています。熱い思いをもって教職に飛び込んできた先生方のゆとりをもって子供たちに接してくれるよう、私たちもよく考えなければなりません。教師の仕事ですか、教師以外に任せましょう。学校の仕事ですか、それは学校以外に任せましょう。気持ちと現実のゆとりを持っていただくのが子供たちのためのなるのです。学校以外の所で子供たちを預かっている方々などに頑張ってもらおうと国をあげて取り組んでいます。

最後に、子供たちの個性を伸ばしていこうという取り組みですが、「個性を伸ばせという欺瞞」と言っている方がいます。「今の若い人はがんじがらめの共通理解を求められつつも、意味不明の個性を求められるという矛盾した境遇にあることが可哀そうだ。教育現場において、親、友達、ホームレス、などの気持ちが分かるか、と話をもっていくのがよほどまともな教育ではないか。」結局、社会に出て、当たり前を共通理解として求められているのに、個性も求められる。それは無理でしょう。

民主主義の主人公を育てる、自分自身が主人公になる。民主主義の根本はなんでしょう、それは人間の尊重というほかにない。「みんなと同じように。は、もうやめてもいい、それでいいのだ。」という社会にしていけることが、一人一人を大切にすることに繋がります。社会全体が変わっていけば学校も変わっていくでしょう。

オリンピックがもうすぐです。前回の東京オリンピックで開会式の日本チームの入場行進を覚えていますか。一糸乱れぬ、行進で入場しました。「さすが日本人、美しい。」と思ったものでした。でもこれは、「日本チームは軍隊か」と外国人には映ったようです。現代の常識で考えると全くナンセンス、そこには個人の尊重や個性のかけらもなく、競技を控えた選手に無駄な時間と精神的圧力をかけた何物でもなかったと思います。 長岡



高山さん卓話ありがとうございました、良いお話でした。

もりおかクラブの状況報告

6月の出席率	10/14	71 %	ゲスト5名	ビジター0名	メネット	0名		
メーキャップ	0	名		6月の切手	0	g	累計	498 g
6月のにこにこ	0	円	累計	焼きそば	0	円	累計	42,000 円
6月の石鹸	0	円	累計	りんご	0	円	累計	0 円
6月の献金	0	円		ファンド合計	0	円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

6月のハッピーバースディ 千葉メン 6/26 千葉 真由美メネット 6/28 誕生日おめでとございます。

ちょっと一服

6月13日、「妖怪豆じい」の加藤メンの畑で大豆の定植作業。



豆ごはんの炊き上がり、嬉しそうだねえ



今日の定植隊チーム



192cmの横綱に乗って230cm



え、乙女のお尻にxxx

盛岡YMCA、宮古復興応援継続事業

東日本大震災から10年が経過して、盛岡YMCAの復興応援は一区切りしましたが、岩手大学名古屋教授は熱い思いで事業の継続を提案しました。応える形で、「子供主体の知的障害教育を学ぶ会」が今年度からスタートしています。参加の教職員は、名古屋教授の教え子の障がい者支援学校の先生2名、盛岡YMCA出身の先生3名、に濱塚総理事、長岡会長が加わり、6月26日、宮古へ行ってきました。

名古屋先生の「できる環境づくり」の提言のお話を受けて、宮古恵風支援学校の中軽米先生の校外学習「みて、さわって、たのしもう」という単元の実践発表がありました。

恵風支援学校では、実態別のグループを編成して学習に取り組んでいます。同じペース、実態にあった学習内容など時間

有効活用できる内容です。「大成功ブック」を用いて校外学習の確認、期待、楽しみを増幅して振り返りも行い体験した事、頑張った事などをまとめました。大成功ブックとは、校外学習の日時、場所、活動内容を写真やイラストを使用して確認できるものです。この日は、宮古水産科学館に訪問してミニ水族館の見学、浄土ヶ浜レストハウスで、外食の楽しみを経験学習しました。子供たちのペースで活動できるよう、日程や時間に余裕を持って、表情や動きを見ながら共感の言葉掛けをしながら活動しました。

障がい者支援学校の先生方にはほんとうに頭が下がります。どうぞこれからも子供たちがすくすく成長できるようご尽力ください。

盛岡YMCA出身の先生方は、担任クラスの運営にけっこう悩んでいました。クラスに支援クラスの子供が数人交じり、一緒に

授業する際の学習の進め方です。ペースのちがう子供が混じることにより、既存の子供たちのイライラや、この子らに手をかけるためのやきもちなどです。交流するのはいい事です。そこに発生する諸問題に対応できれば、の話ですが。名古屋先生や支援学校の先生にアドバイスをもらい今後の実践に役立てばいいのですが。驚いたのは、1週間が終わり、金曜日の夕方ほっと一息。土曜日の夕方から、気持ちが重くなるという話を聞きました。何も力になれない事が少し残念です。頑張れ若い教師たちよ。



マックス、トラック、ラフ、久々の再開。頑張れ～

もりおかワイズメンズクラブ新年度運営体制

会長	長岡 正彦
副会長	山口 貴伸
会計	大関 靖二
書記	濱塚 有史

メネット	井上 優子
ユース	三田 庸平
ブリテン	長岡 正彦
DBC	井上 修三
事業主査	中村 渉

岩国みなみワイズメンズクラブ様へ

10周年記念ブリテンの寄稿

10周年、岩国みなみクラブ様おめでとうございます。

DBC おりおかクラブ会長 長岡 正彦

発足10周年をお祝い申し上げます。初めて高瀬さんご一行が盛岡を訪れたのは、この冬一番寒い氷点下10℃を下回る2月初旬でしたね。冬靴を履いていない高瀬さんが思いっきり転んだことを思い出しています。その後、DBCを締結してお互いに交流を重ねてまいりました。東日本大震災の被災地を訪問していただき、たいへんありがたく思っております。また初冬の山口萩市を訪れたときの、「町内会からの討幕、子供会の明治維新」という言葉に驚きました。このような長州の伝統が発足数年で、西日本区の理事を輩出する偉業を成し遂げたのでしょうか。パワーはものすごいものがあります。そんな岩国みなみクラブ様とDBCを締結している事に誇りを感じます。私たち、もりおかクラブは貴クラブをお手本に崇高なワイズメンの意識を掲げて活動を続けてまいります。どうぞ、これからもDBCの交流を深めてよりよい関係を構築してまいりましょう。

盛岡YMCA総主事 濱塚 有史メン

濱塚と申します。広島Y、仙台Y、盛岡Y大、中、小と3つのYでスタッフとして30年以上働いてきました。最初、ワイズメンズには、「バザーでビールを飲んでいて騒いでいる人たち。」とあまり良いイメージをもっていませんでした。ということで、ワイズの担当主事になることはなるべく避けていたのですが、30代の半ばにとうとう逃げ切れず仙台青葉城ワイズメンズクラブに入ったの最初です。当時の総主事には、「YMCAのスタッフはレイマンを通して育てられる」と教えられました。今にして思うとまさにその通り。

かつて、盛岡YMCAが破綻、解散の危機を迎えたとき、親身に支えて下さったのは、清水さんを始めとした仙台青葉城クラブの皆さんたちでした。還暦を迎えた今でも、仕事上判断に迷うことが多々あります。そのようなときは、もりおかクラブの井上さん、大関さん、長岡さんだったらこうした場合、どう行動するだろうとイメージしながら仕事をしております。

編集後記

お～い、トトロの感想文原稿が届かないぞ。空いた穴を5月の岩国みなみクラブ様へ送った10周年記念ブリテンの寄稿を掲載しました。あっ、穴埋めとは大変失礼しました。実は10周年と聴いて、大変驚きました。「発足数年で、西日本区理事を輩出したのですね。」私の感覚からは全く考えられない偉業だったのですね。

学校の校則に関しては、思いがあります。何かしら事件や問題が起きて、対策として校則やルールが出来上がってきます。

出来た瞬間は、子供も、学校も、保護者も納得の校則ルールなのですが、時が経過し年代が替わって行き、当時の出来事を知らない世代に代わります。その時、校則ルールだけは残っているのです。あの出来事を知らない人は、「なんだ、この校則は、ルールは。まったくナンセンスだ。」となります。これが、ブラック校則や、ブラックルールになって行くのでしょうか。見直しや再考をやめた組織には暗黒の未来しかありません。変わろう、チェンジです。過去のワイズメンの主題にも何回も登場した言葉です。今こそ実践しましょう。

